

年 組 名前 :



見つかった奉納物と上
文司厚さん—富士吉田
市上吉田4丁目

御師住宅で保存 最古か

富士吉田

富士吉田市吉田4丁目の御師「上文司家住宅」で、富士山への登頂を記念して、1597年に奉納した額が見つかった。富士登山の奉納物としては最古とみられる。専門家は「戦国時代から信仰登山や奉納の文化があったことを裏付ける貴重な資料だ」としている。

〈仲沢篤志〉

富士登山奉納物 戦国期の額発見

北口本宮富士浅間神社宮司で、上文司家18代目当主の上文司厚さん(61)によると、見つかったのは直径約40センチの木製の額。今年5月ごろ、上文司さんが住宅を整理しているときに見つけた。表面には「御神酒 富士登山三拾三度大願成就 天正五年」と記され、送り主として、「願主 遠藤兵三郎 兵五太夫」と記されている。裏面には現在の相模原市緑区寸沢風に当たる相州津久井寸沢風の文字が書かれている。富士登山33回を記念し、日付と登前住所を添えて奉納したものとみられる。御師の家は江戸時代に最盛期を迎えた富士山を信仰する富士講を世話しており、上文司家にも数多くの奉納物が残っている。ただ江戸時代から大正時代のもものが多く、今回の奉納物は「突出して古い」と上文司さんという。ふじさんミュージアムの篠原武学芸員によると、これまで、富士登山の奉納物としては1591年が最古だった。「戦国時代に、大願成就して何度も富士山へと登り、奉納していたことを示す重要な資料だ」と話している。奉納物は10月18日に開いた茶会で初披露。一般公開などは予定していないが、上文司さんは「機会があればお披露目する場も検討していきたい」と話している。

(2023年11月1日付 山梨日日新聞 15面)

問1

富士登山の奉納物としては最古とみられる額は、どこで見つかりましたか。

.....

問2

何を記念して奉納された額でしょうか。

.....

問3

その額の大きさと、何製の額か、教えてください。

・大きさ : ・何製 :

問4

この額は、なにを裏付ける貴重な資料でしょうか。

.....